転倒災害の再発防止のための自主点検等報告書

令和　年　月　日

労働基準監督署長　殿

事業場名

業種

所在地

代表者氏名

令和　年　月　日発生した被災労働者[**氏名**：　　]に係る労働災害について、下記のとおり自主点検を実施しましたので報告します。

労働者死傷病報告提出年月日　**令和　年　月　日**

1　被災事業場の安全衛生管理体制について教えてください

(1) 以下の安全衛生担当者のうち選任しているもの全てに☑をつけてください。

□安全管理者　□衛生管理者　□安全(衛生)推進者

(2) 以下のうち実施しているものに☑をつけてください。

□安全(衛生)委員会　□その他(関係労働者の意見を聴くための機会を設けている)

2　転倒災害が発生した原因として考えられるもの全てに☑をつけてください。☑をつけた項目については、改善措置を実施してください。

№	原　因	
1	通路、階段、出口に物を放置したまま、身の回りの「**整理**」・「**整頓**」を行っていなかった。	□
2	床面等の水たまり、氷、油、粉類などを放置したまま、「**清掃**」せず「**清潔**」にしていなかった。	□
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていなかった。	□
4	段ボール箱等の荷物を運んでいたため、足元の視界が確保されていなかった。	□
5	転倒を予防するための教育や「**KY活動**」を行っていなかった。	□
6	天候や作業現場に合った作業靴(例：耐滑性作業靴、冬用靴)を履いていなかった。	□
7	サイズの合わない靴を履いていた。または、しっかり靴を履いていなかった。	□
8	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成していなかった。または、作成していたが周知していなかった。	□
9	段差により躓きやすい場所や凍結等により滑りやすい場所などに注意を促すステッカー、ポール等の目印を設けず、「**危険の見える化**」に取組んでいなかった。	□
10	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていなかった。	□

3　上記2の原因の項目の他に今回の転倒災害の原因として考えられるもの及び今回の転倒災害を契機として新たに取り組むこととした対策を記入してください。

※記載しきれない場合、余白又は別紙に記載し、添付してください。

各労働基準監督署ファックス番号

金沢(076)291-6244　小松(0761)22-4230　七尾(0767)52-3295　穴水(0768)52-1141

STOP !転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため**「STOP！転倒災害プロジェクト」**を推進しています。 STOP！ 転倒 検索

事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、適時にチェックリストを活用した**点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

転倒災害の特徴（石川県）

特徴１ **転倒災害は最も多い労働災害！**

令和２年の休業４日以上の労働災害1,158人のうち、転倒災害は**282人**と最も多く発生しており、近年増加傾向にあります。

特徴２ **特に高年齢者で多く発生！**

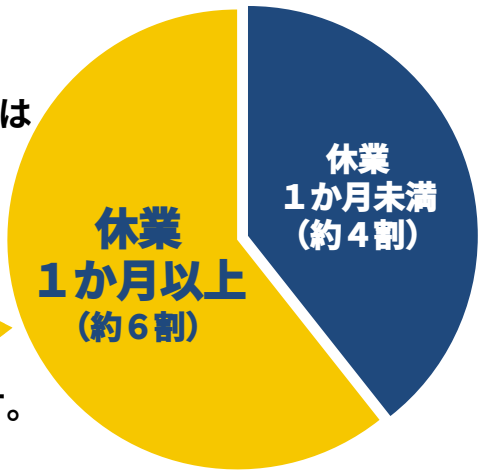
高年齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では55歳未満と比較してリスクが**約３倍**に増加します。

特徴３ **休業１か月以上が約6割！**

転倒災害による休業期間は**約６割が１か月以上**となっています。

特徴４ **冬季に多く発生！**

降雪、凍結による災害が、冬季に多く発生しています。

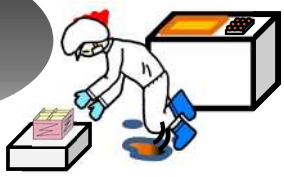


「令和２年労働災害の現況」（石川労働局）
労働者死傷病報告書により作成

転倒災害の主な原因

▶転倒災害は、大きく３種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？

滑り



＜主な原因＞

- 床が滑りやすい素材である。
- 床に水や油が飛散している。
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。
- 路面等が凍結している。

つまずき



＜主な原因＞

- 床の凹凸や段差がある。
- 床に荷物や商品などが放置されている。
- 荷物を流すコンベアなどを跨ぎ近道行動する。

踏み外し



＜主な原因＞

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。
- 照明不足の暗い場所を移動している。

転倒災害防止対策のポイント

▶転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

４Ｓ(整理･整頓･清掃･清潔)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
・歩行場所に物を放置しない ・床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く ・床面の凹凸、段差などの解消	・時間に余裕を持って行動 ・滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 ・足元が見えにくい状態で作業しない	・移動や作業に適した靴の着用 ・職場の危険マップの作成による危険情報の共有 ・転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！
「ＳＴＯＰ！転倒災害プロジェクト」

STOP！ 転倒 検索